

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 6 部門第 1 区分
【発行日】令和 6 年 5 月 22 日(2024.5.22)

【公開番号】特開 2023-127778(P2023-127778A)
【公開日】令和 5 年 9 月 14 日(2023.9.14)
【年通号数】公開公報(特許)2023-174
【出願番号】特願 2022-31671(P2022-31671)
【国際特許分類】

G 0 1 N 2 7 / 2 2 (2 0 0 6 . 0 1)

10

【 F I 】

G 0 1 N 2 7 / 2 2 A

【手続補正書】

【提出日】令和 6 年 5 月 14 日(2024.5.14)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

20

【 0 0 0 3 】

【特許文献 1】特開 2 0 1 9 - 5 6 6 0 7 号公報

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 4 9 】

この例では、第 1 構造体 1 0 S は、第 2 接続部 1 2 C、第 2 可動接続部 1 2 B 及び第 2 固定接続部 1 2 A を含む。第 2 接続部 1 2 C は、第 2 変形部 1 2 F と第 2 中間部 1 2 M とを接続する。第 2 可動接続部 1 2 B は、第 2 中間部 1 2 M と第 1 可動部 2 1 とを接続する。第 2 固定接続部 1 2 A は、第 2 固定部 1 2 X と第 2 変形部 1 2 F とを接続する。

30

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 5 1 】

図 1 (a) に示すように、第 2 中間部 1 2 M から第 1 可動部 2 1 への第 1 可動接続方向 (この例では、第 2 方向 D 2 に沿い、X 軸方向に沿う) は、第 1 方向 D 1 と交差する。第 2 可動接続部 1 2 B の少なくとも一部の第 2 可動接続交差方向に沿う幅 1 2 B W は、第 2 中間部 1 2 M の第 2 可動接続交差方向に沿う幅 1 2 M W よりも狭い。第 2 可動接続交差方向は、第 1 方向 D 1 及び第 2 可動接続方向を含む平面と交差する。この例では、第 2 可動接続交差方向は、第 3 方向 D 3 に沿い、例えば、Y 軸方向に沿う。

40

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 5 2 】

50

図 1 (a) に示すように、第 2 固定部 1 2 X から第 2 変形部 1 2 F への第 2 固定接続方向 (この例では、第 2 方向 D 2 に沿い、X 軸方向に沿う) は、第 1 方向 D 1 と交差する。第 2 固定接続部 1 2 A の少なくとも一部の第 2 固定接続交差方向に沿う幅 1 2 A W は、第 2 変形部 1 2 F の第 2 固定接続交差方向に沿う幅 1 2 F W よりも狭い。第 1 固定接続交差方向は、第 1 方向 D 1 及び第 2 固定接続方向を含む平面と交差する。この例では、第 2 固定接続交差方向は、第 3 方向 D 3 であり、例えば、Y 軸方向である。

【 手 続 補 正 5 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 5 9

【 補 正 方 法 】 変 更

10

【 補 正 の 内 容 】

【 0 0 5 9 】

図 6 は、第 1 実施形態に係るセンサを例示する模式的断面図である。

図 6 に示すように、実施形態に係るセンサ 1 1 2 においては、第 1 可動部 2 1 は、第 1 可動電極 2 1 E に加え、導電層 2 1 A を含む。導電層 2 1 A は、第 1 可動電極 2 1 E と積層される。導電層 2 1 A は、例えば、第 1 抵抗層 1 1 R と同層である。センサ 1 1 2 における上記を除く構成は、センサ 1 1 0 における構成と同様で良い。

【 手 続 補 正 6 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 9 0

【 補 正 方 法 】 変 更

20

【 補 正 の 内 容 】

【 0 0 9 0 】

図 1 7 (a) 及び図 1 7 (b) は、第 2 実施形態に係るセンサを例示する模式図である。

図 1 7 (a) に示すように、センサ 1 2 0 においては、センサ素子 1 0 E の第 1 基体 4 1 に制御部 7 0 が設けられる。制御部 7 0 は、例えば、第 1 基体 4 1 の一部に形成される回路 (例えば C M O S : complementary metal oxide semiconductor など) を含んで良い。

30

40

50